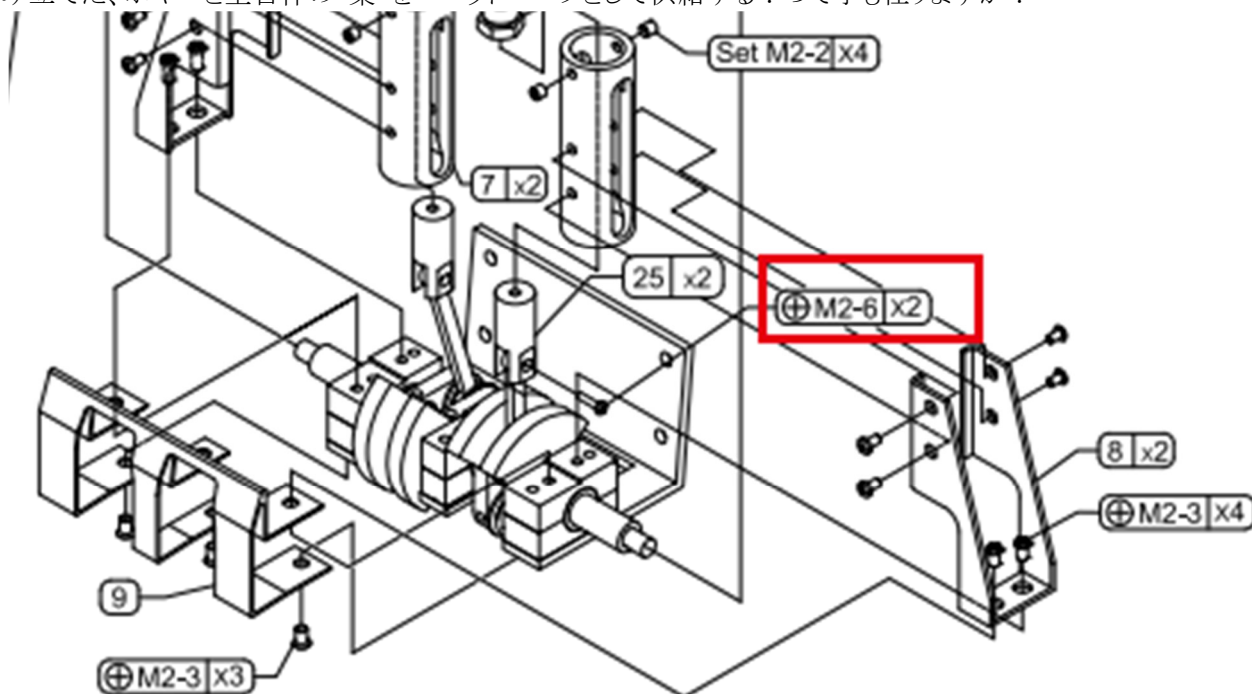
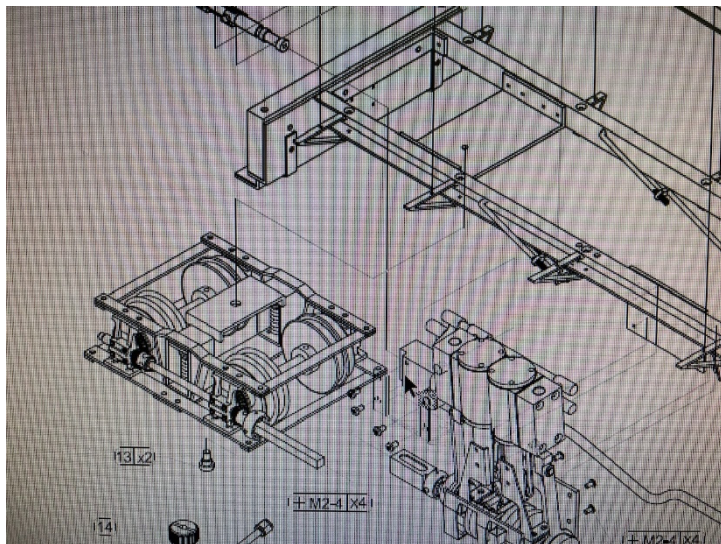


済みません Shay もう少しお待ちください。

感謝祭からクリスマスに掛けてリリースする為に、初期ロットの Shay は、全数 AccucraftUS へ出荷されました。その数は全生産数の半数を超えています(200 台以上)が、おかげで、アメリカのこの種の安いモデルを買う顧客＝完成品しか買ったことが無い方で、キット製作が初めての方が、とんでもなく多い事、そして、その方たちが多くの点で迷った事。其の上(これは、私が行けないのですが)安いモデルだからと、甘くチェックしたおかげで、とんでもない普通では考えられないミスを出かしました。今回はその言い訳を述べて、日本向け納品が“遅れる”言い訳をしたい、と思います。

シルバーにメッキされているとは言え、真鍮のネジは鉄製の板金部品より“柔らかい”ので、無理に回せば、運が良ければマイナスのネジ頭を舐めるだけで済みますが、無理に回せば、ネジ山は坊主になります。これは基本中の基本的知識で、ですから日本の、弊社モデルを組み立てた“経験”があるお客様ならば、最悪タップを立て直して、鉄部品のネジ山のメッキ面を落す。しかし、普通は、きちっと穴を目視で合わせて、最初は手で回す、又は弱い力でスーッとネジか、入る事を確認して、最後に増す締めをする。という組立プロセスを採るでしょう。しかし 2000 ドルもする？商品を買ったのだから、どんな風にネジ締めしてもプラモデルの様に、簡単に組み立てられるだろう。と誤解したのでしょう？

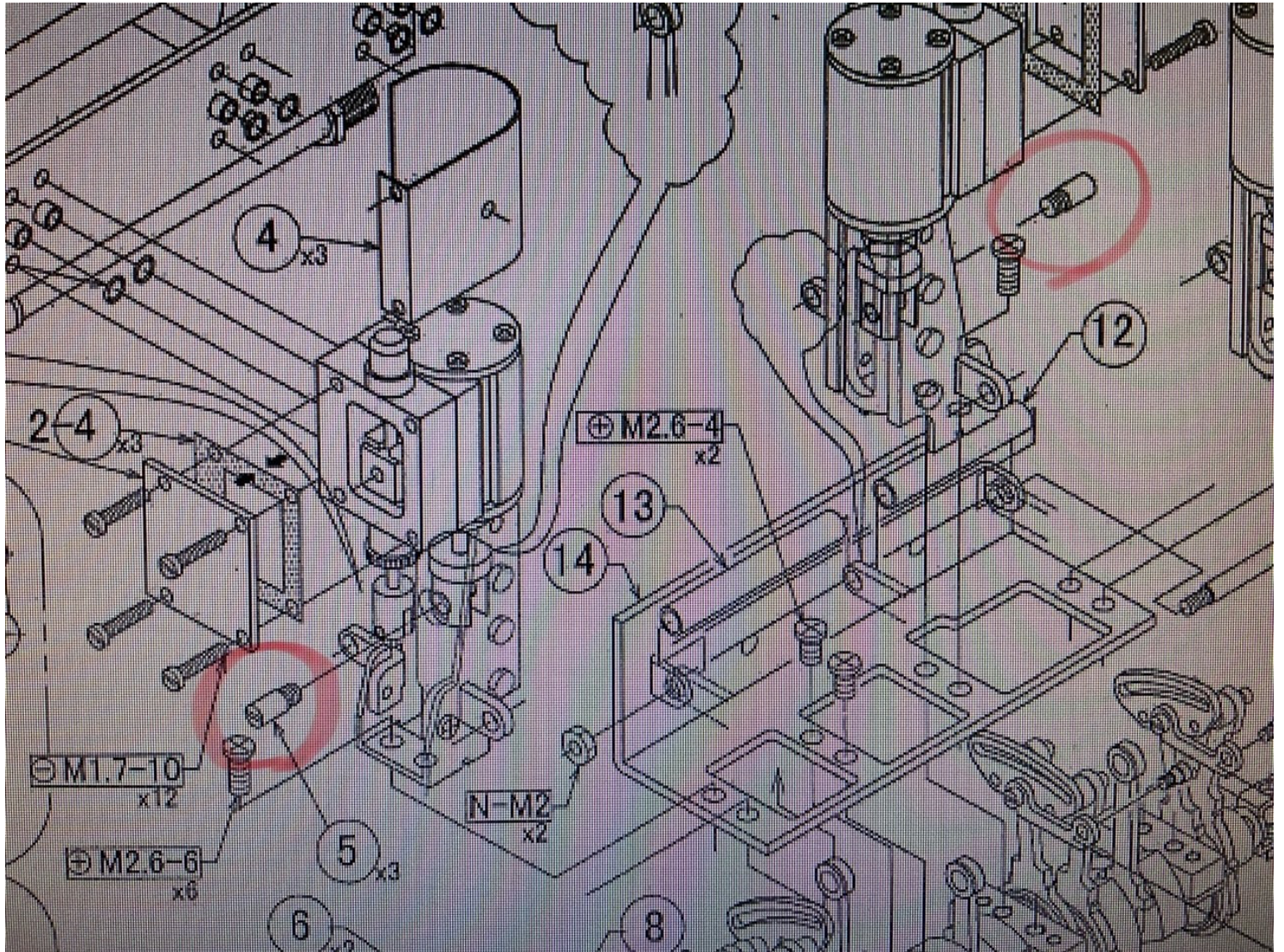
多くのビギナーのお客様は。と言う顛末でした。ハイ、ネジを再供給いたします。しかも、このど素人様向けに、真鍮では無く SUS で、(しかし懸念は、これで、力任せに締めては、ボギー台車の回転が固くなるとは思いますが?)まあ中国の職人さんが、予め組み立てた、ボギーと主台枠の“梁”をユニットパーツとして供給する？って手も在りますが？



で次の問題は、私の指示ミスです。でも言い訳ですが、こんなこと指示しなくても“日本の常識”。だと思うのですが、まあ、信じた私が、馬鹿だった。という顛末です。(上は、拡大した問題個所のイラストです)

要はクロスヘッドピンに、コストダウンの為、とは言え、“普通のネジ！”を使用してしまったのです。締め易い(組み立て易い)で、しょうけれど、これでは固着してしまい、動かなくなります。最もスムーズに動いて欲しい箇所が！です。事前に、弊社の前の Shay の組立図(部品構成図)は、こんな感じだと、送っていたので、「大丈夫こんな所はチェックしなくても！」とタカを括っていましたが、やっちまいました。これは、お客様に平身低頭です。弊社のお客様ならば「バ〜カ」と笑って許して、巧く対処してくれるでし

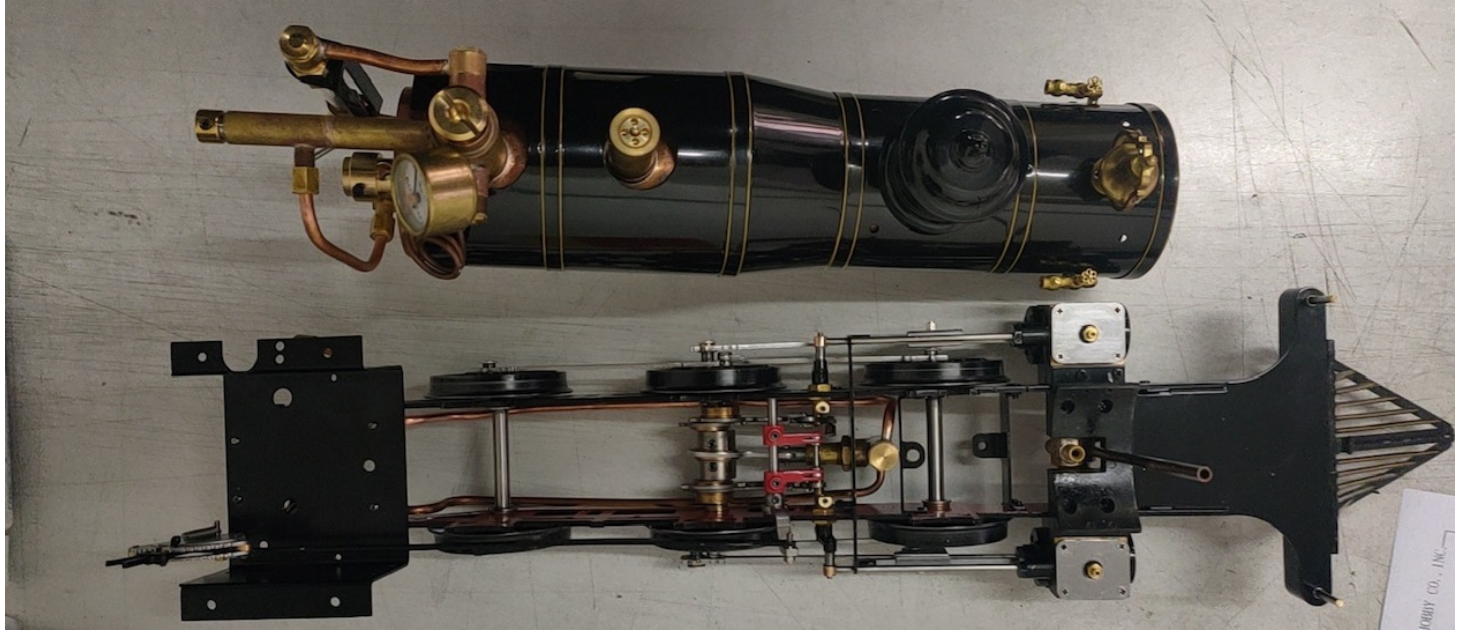
ようけれど、広い北米大陸に散らばる“200 人以上”の、可也素人なお客様には、そのような訳には行かないでしょう。もうエラータ図面を付けて無償で対応してもらう以外は無いです。救いは、過去アスターの製品(KIT)には、エラータが付きものであった、と云う実績？だけです。Made in Japan 品質は、世界的に絶対的な信頼性が在りますから、この点は裏切ってはいけない重要な部分です。たとえアキュラフトブランドの商品であっても、もうお客様は、背後にアスターがチェックしていると信じていますから(トホホです)下のイラストは、アキュに提供した、弊社製 Shay のエンジン構成図です。大損害です(悲)



という訳で、弁慶も粛々と進めています、監視の目は緩ませる訳には行きません！

年始め、早々に、こんな事件が勃発したので、前号でも宣言しましたが、今年リリース予定の全製品のチェックを手抜きする訳には行かないでしょう。月一で出社予定のビンさんも、此の対処で大童、1月の訪日は諦めて、戦後処理に対応しなければなりま

せん。さて、中国側に届いている1次試作の弁慶ですが、下の写真の様に、分解して、今回の再設計に必要な部品の製造と、それに伴う、各部品の新規や改良図面の作成に入っています(再設計や、どう云う形状、組立個所は、何処にすべきかの検討は、既に終わっていますので)軸動ポンプやバルブギヤの鋳物部品は、CNC加工のモノに換えるべきか?このままロスト真鍮鋳造部品に、精密加工を後から加えるべきか?コストとの戦いになります、日本のお客様の懐を勘案し、せめぎ合いは未だ未だ続き



ます。下のテンダーは燃料タンクの形状や取付位置が、完璧に変わる。が、この外観の出来は殺したくないので、我々の指示した部品形状に、どの様にアレンジ(変える)するかは、見ものですが、それ等の部品の組立は、我々が行い改善すべき点は、伝



えます。ボギー台車とハンドポンプの部品は使いますが、れ以外の写真の部品とボイラー及びボイラーフィッティング部品に関しては、全面新設計の上、作り直しになる可能性が在ります。鍍金だけして、塗装していない部品は床板部品になりますが、これには相当後から追加工が必要になるので、新規に作り直すか、試案の為所です。